

# 微分積分 B（情報科学類 3・4 クラス対象）

## 第 8 回 演習課題解説

---

担当教員：萬 礼応（情報科学類）

2025 年 6 月 19 日 (木)

### 1. 次の級数の収束・発散を調べなさい.

$$(1) \sum_{n=1}^{\infty} \left( \frac{5n-2}{4n+3} \right)^n$$

【解答】

級数の第  $n$  項目を  $a_n = \left( \frac{5n-2}{4n+3} \right)^n$  とおき、コーシーの判定法を用いて収束・発散を判定する.

$\lim_{n \rightarrow \infty} \sqrt[n]{a_n} = r$  が存在して、 $0 \leq r < 1$  であれば、この級数は収束し、 $r > 1$  であれば発散する.

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \sqrt[n]{a_n} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{5n-2}{4n+3} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{5 - \frac{2}{n}}{4 + \frac{3}{n}} = \frac{5}{4} > 1$$

であるから、この級数は発散する.

## 課題解説：問題 1 (2)

$$(2) \quad \sum_{n=1}^{\infty} e^n \left( \frac{n}{n+2} \right)^{n^2}$$

【解答】

級数の  $n$  項目を  $a_n = e^n \left( \frac{n}{n+2} \right)^{n^2}$  とおき、コーシーの判定法を用いて収束・発散を判定する。 $\sqrt[n]{a_n}$  の式を変形すると、

$$\sqrt[n]{a_n} = e \cdot \left( \frac{n}{n+2} \right)^n = e \cdot \frac{1}{\left( \frac{n+2}{n} \right)^n} = e \cdot \frac{1}{\left( 1 + \frac{2}{n} \right)^n}.$$

ここで  $n = 2m$  とおくと、 $n \rightarrow \infty$  のとき  $m$  も  $m \rightarrow \infty$  となる。よって、

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \sqrt[n]{a_n} = e \cdot \lim_{m \rightarrow \infty} \frac{1}{\left( 1 + \frac{1}{m} \right)^{2m}} = e \cdot \frac{1}{e^2} = \frac{1}{e} < 1$$

であるから、この級数は収束する。

## 課題解説：問題 1 (3)

$$(3) \quad \sum_{n=1}^{\infty} \frac{n^n}{n!}$$

【解答】

級数の第  $n$  項目を  $a_n = \frac{n^n}{n!}$  とおき、ダランベールの判定法を用いて収束・発散を判定する。

$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{a_{n+1}}{a_n} = r$  が存在し、 $0 \leq r < 1$  を満たすならばこの級数は収束し、 $r > 1$  ならば発散する。

$$\begin{aligned} \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{a_{n+1}}{a_n} &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{(n+1)^{n+1}}{(n+1)!} \cdot \frac{n!}{n^n} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{(n+1) \cdot (n+1)^n}{(n+1) \cdot n!} \cdot \frac{n!}{n^n} \\ &= \lim_{n \rightarrow \infty} \left( \frac{n+1}{n} \right)^n = \lim_{n \rightarrow \infty} \left( 1 + \frac{1}{n} \right)^n = e > 1 \end{aligned}$$

であるから、この級数は発散する。

$$(4) \quad \sum_{n=1}^{\infty} n \sin \frac{\pi}{2^n}$$

【解答】

級数の第  $n$  項目を  $a_n = n \sin \frac{\pi}{2^n}$  とおき，ダランベールの判定法を用いて収束・発散を判定する．

$$\begin{aligned} \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{a_{n+1}}{a_n} &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{(n+1) \sin \frac{\pi}{2^{n+1}}}{n \sin \frac{\pi}{2^n}} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{n+1}{n} \cdot \frac{\sin \frac{\pi}{2^{n+1}}}{\frac{\pi}{2^{n+1}}} \cdot \frac{\pi}{2^{n+1}} \cdot \frac{\frac{\pi}{2^n}}{\sin \frac{\pi}{2^n}} \cdot \frac{2^n}{\pi} \\ &= \lim_{n \rightarrow \infty} \left(1 + \frac{1}{n}\right) \cdot \frac{\sin \frac{\pi}{2^{n+1}}}{\frac{\pi}{2^{n+1}}} \cdot \frac{\frac{\pi}{2^n}}{\sin \frac{\pi}{2^n}} \cdot \frac{1}{2} = 1 \cdot 1 \cdot 1 \cdot \frac{1}{2} = \frac{1}{2} < 1 \end{aligned}$$

であるから，この級数は収束する．

2. 関数列  $\left\{ \frac{x^n}{(1+x^2)^n} \right\}$  の一様収束性・広義一様収束性を調べなさい。

【解答】 この関数列は  $(-\infty, \infty)$  で定義され，第  $n$  項目は  $f_n(x) = \frac{x^n}{(1+x^2)^n} = \left( \frac{x}{1+x^2} \right)^n$  と書ける．ここで， $g(x) = \frac{x}{1+x^2}$  とおき， $g(x)$  の値のとりうる範囲を調べる． $g'(x)$  を計算すると，

$$g'(x) = \frac{1 \cdot (1+x^2) - x \cdot 2x}{(1+x^2)^2} = \frac{1-x^2}{(1+x^2)^2}.$$

$g'(x) = 0$  となる  $x$  は  $x = \pm 1$  であり， $g(x)$  は  $x = 1$  で極大値（最大値） $\frac{1}{2}$ ， $x = -1$  で極小値（最小値） $-\frac{1}{2}$  をとる．よって，この関数列の極限関数  $f(x)$  は 0 である．

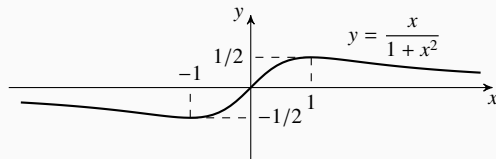


図 1: 関数  $g(x)$  の概形．

したがって、 $(-\infty, \infty)$  において、任意の  $\varepsilon > 0$  に対し自然数  $N$  が存在し、すべての  $n \geq N$  と、 $(-\infty, \infty)$  のすべての  $x$  に対し、

$$|f_n(x) - f(x)| = \left| \frac{x^n}{(1+x^2)^n} - 0 \right| = \left| \frac{x}{1+x^2} \right|^n \leq \left( \frac{1}{2} \right)^n < \varepsilon$$

とすることができる．よって、この関数列は  $(-\infty, \infty)$  で一様収束する．

3. 関数項級数  $\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{x^2 + n^2}$  の一様収束性・広義一様収束性を調べなさい.

【解答】

この関数項級数の第  $n$  項目は

$$\frac{1}{x^2 + n^2} \leq \frac{1}{n^2}$$

となり、かつ正項級数  $\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^2}$  は収束するから、この関数項級数は  $M$ -判定法より  $(-\infty, \infty)$  で一様収束する.